

MERIT 企業インターンシップ国内 報告書

工学系研究科 マテリアル工学専攻

吉田・秋元研究室

MERIT4 期生 小野田実真

実施期間：2016年7月24日～2016年9月30日

受け入れ先：ナノティス株式会社

インターンシップ概要：

2016年6月に設立された東大発ベンチャーであるナノティス株式会社において、インターンシッププログラムに参加させていただいた。

ナノティス株式会社は、従来の医療診断デバイスにマイクロ診断システム・MEMS 技術・生体分子認識技術などを組み合わせることで早期診断・診断の簡便さを実現した次世代の医療診断チップの開発を目指すベンチャー企業である。本インターンシップにおいては、上記診断システムに関する R&D を実際に行うと共に、ロードマップの提案・市場調査・ニーズ調査等を含む経営戦略/技術戦略に関する課題を遂行するなど、設立間もないベンチャー企業ならではの研究開発を体験した。

活動内容：

マイクロ診断システムの実現にあたり、経営・研究開発双方の観点から戦略立てを行った。具体的には、市場調査、国内既存製品の調査及び比較をした上で開発しようとしている製品の強みを明確にし、R&D 計画の土台を構築した。この過程で具体的なモデル設計を行い、新規解析技術の適用に最適な材料の選定をした。得られた候補に対し実験を行い、デバイスの信頼性・反応の迅速性等の観点から評価した。これら課題にはプロトタイプ作成のためのコアとなる研究開発プロセスが含まれる。ディスカッションや軌道修正を繰り返す中で R&D の基盤となる実験フローが確立され、プロトタイプの早期実現に向けた一連の取り組みに貢献することができた。

創業間もないベンチャー企業ならではの迅速かつ流動的な経営判断を間近で体感した。バリュープロポジションの提案や経営に関わる技術資料の作製・説明等もごく一部ながら担当させていただいた。企業としてのリスク管理・チームビルディングに関する基礎を学ばせていただいたのは勿論の事、自身の研究をコア技術に用いて起業するためのフローについて実感を深めた。

総括：

本インターンシップでは、基本的なベンチャー企業の経営方針や R&D について学ぶことができたのが何よりの経験となった。学術的新規性を土台に隙のない研究を行う大学等研究機関や、ある程度の予算・枠組みの中で高度に透明化された R&D を行うことの多い大企業と比べ、ベンチャー企業では全てのプロセスにスピード感が求められると感じた。経営判断然り、研究開発の方針然り、常に優先事項を見極め最短経路で走るための道を自ら構築することが必要であった。目標達成のためのプランを頭の中で常に複数稼働させながら現在の課題に取り組む過程は大変刺激的であり、充実した体験をすることができた。

また、私自身の研究をもとに将来起業することになった場合、どのようなフローでもって起業し、R&D を進め収益に繋げるかという点について具体的なイメージを持つことができた。普段行っている大学での研究活動では接することの少ない世界について学び、共通点や差異を認識し、実感を深めた今回の経験は非常に有意義なものであった。本インターンシッププログラムでの経験は、ビジネスの原体験として将来自分が産学官どの道に進んだとしても生きるものであると考えている。

謝辞：

本インターンシッププログラムの受け入れ先企業であるナノティス株式会社には、今回のインターンシッププログラム受け入れをご快諾いただき、心より御礼申し上げます。受け入れをご担当いただいた坂下様、新田様にはお忙しい中非常に多くの時間を割いていただき、ご指導いただきました。また、指導教官である吉田亮教授には、本インターンシッププログラムへの参加をご快諾いただきましたこと心より御礼申し上げます。最後に、長期インターンシッププログラムという貴重な学びの機会を下さった MERIT プログラムに心より御礼申し上げます。